

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第8回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年11月20日(金) 午後4時05分～午後5時55分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	村松賢一、苅部一夫、片柳博文、山口義一、加藤芳和、武井和幸、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、谷川拓也 指導主事

事務局

初めに、部長より挨拶をお願いしたい。

部長

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今回は8回目の部会となるが、事務局にまとめてもらったものを全員で確認し、意見を出してもらうという会議になるのでよろしくをお願いしたい。

事務局

次にアドバイザーよりご挨拶いただきたい。

アドバイザー

皆さんに配らせていただいたプリントに沿って少し話したい。これは新学習指導要領で「表現」が各教科でどのように位置づけられているかまとめたものだ。中心になるのはもちろん国語科になるが、カリキュラムを実際に動かす際に整合性をとるためにも、一度目を通して理解しておくことが必要だと思う。

国語科のところでは「話すこと」「聞くこと」の領域から「聞く」と「話し合う」という部分をカットして、「話す」ことだけを取り上げている。①の取材は我々の「調べる力」などに当たるもので小1～4年では身近なこと、経験したこと、関心のあることなどから話題を決めるとなっている。小5～6年では考えたこと、伝えたいことから話題を決めるが、中1になると日常生活の中からということでも1からスタートしなおして中2、中3で発展させるという感じになっている。これは小中一貫のカリキュラムではないからで、我々の場合は小5～中1のくくりを考えたこと、伝えたいことの話ができるとした方がいいと思う。

②の話すは中学校まで割と系統だっているのですが、我々の「組み立てる力」を考える時にどういう順序付けをしているかという点で、かなり参考になるのではないかなと思う。

⑤の言語活動は書いてある通りだが、小5～6年で資料などを提示しながら説明や報告を行うというのがある。ここには載せていないが中3では資料やプレゼンテーションソフト、機器等を使いというのが入っていたと思う。

下の方は他教科での表現についてのものであるが、ほとんど全ての教科で学習したこと活用し、説明する活動を充実させるようになっている。今後、表現のカリキュラムを作る場合、国語科

だけではカバーしきれないので他教科の活動をちりばめていく必要がある。我々の「表現力」は独立したのではなく他教科や教科外のものとの連携を取りながら考えていくものなので、各教科でどのように表現を位置付けているかを頭に入れながら議論を進めていければと思う。

事務局

続いて協議に入りたいと思う。このあとは部長からよろしくお願ひしたい。

部長

レジュメの次から6ページ、事務局より資料としてまとめてもらっている。(1)の基本的な考え方は答申をそのままということで(2)の本部会の検討の視点から目を通していただきたい。

(各委員、資料内容の確認)

資料について事務局から説明があればお願ひしたい。

事務局

最終的な報告書の形で作ってきたので、順番に説明させていただく。最初の「表現力の育成」は答申のもので、変りない。「表現力の定義」はご覧の形とさせていただいた。

「本部会の検討の視点」はこれまで話し合われてきた内容を順に載せ、視点を絞ってきたことを書かせていただいた。また「重視する指導項目の定義と説明等」でも五つの重視する力を文章で表現させていただいた。「教育課程上の位置付け」についてはカットすることも含めて他部会との調整がまだついていない。

「目指す子供像」はこれまでのいろいろな意見をまとめてみたが、ご検討をお願ひしたい。「各学習期における子供像」はいただいたものをそのまま入れており、ご確認いただきたい。

「全学習期を通じて指導する指導事項」では「語い力」の説明を書かせていただいた。

ここまですが本来のページの割り振りだが、検討の中で各期の終りに行事を設けるといふ話が出ていたので、それについても触れられればと思ひ「その他」として入れようと思っている。

「重視する指導項目」についてはA3の資料を作った。五つの重視する項目の中で「表現に関する技能」の資料が非常に分かりやすかったので、このような形で枠を埋めていければと思ひ作ってみたが、あくまでも検討材料の一つといふことで皆さんのご意見をいただきたい。

資料2として用意したのは前回、各委員にまとめてもらったものを整理したものだ。各期の身につけさせたい力や観点が明快で共通理解を図る上で参考になると思ふ。

部長

「表現力の定義」「本部会の検討の視点」「重視する指導項目」などについて何かご意見はあるか。(特に意見なし)「教育課程上の位置付け」は今回初めて出てきたものだが、これを入れるといふことでよいか。

事務局

4部会で相談をし、形に入れたものを作らせていただきたい。

部長

では事務局にすり合わせをしてもらい、再提案していただく。「目指す子供像」についてはまだ議論していない部分だのご意見はあるか。私としては“生き生きと”だとか“自信を持っている”といった言葉をいれ少し大きなイメージで書いた方がいいと思う。情報や資料という言葉は必要ない。

委員

私も ICT 機器等の言葉が先にあって、これらを使うための表現の方法を考えてるような印象を受ける。

委員

最初の「与えられた情報や資料について～」というのは受身のイメージが強くなってしまうと思う。柱のひとつに「調べる力」があり、身近なことから話題を決めること等を目指しているのでふさわしくない。やはり細かいことではなく全体を通して大きく表現することに賛成。

委員

美術では「個性的な自己表現」という言葉をよく使うが、発表を通して個性を磨いていくというような視点があってもおもしろいと思う。

アドバイザー

最終的にこんな子供に育てたいということに関して「生き生きと話せる」といったようなものを出し合って文言にしていけばいいと思う。「個性的」というのも一つの要素だし、受け身ではなく積極的な姿勢も大切。そういうものを出し合ってまとめるのがよい。

部長

これまで出たほかに、皆さんが目指す子供像を表現するために入れてほしいと考える言葉や視点はないか。

委員

相手意識として相手に分かるようにとか納得できやすいようにという視点が入るといいと思う。いかに分かりやすく伝えられるかという中で相手のことも少しは触れておく必要があると感じた。

アドバイザー

生き生きだけでは困るので、相手に分かりやすくというのは抜かせないキーワードだと思う。あと私としては表現することに積極的な子供を目指したいというイメージがある。

部長

同感だ。拙い言葉でも一生懸命自分を伝えようとしているイメージを入れてほしい。他にあればあとでご意見いただきたい。次に「目指す子供像」のⅢ期で副部長から提案いただきたい。

委員

前回、平易にということで整理しまとめてみた。「概念」という言葉は言い換えが難しかったのだが、お示した形になった。まず学習対象が身近なものから広がっていき、それらをまとめる必要が生じるということで「物事を一般的に抽象的にとらえたり受け止めたりすることが多く含まれるようになっている」と位置付けた。次に表現力のゴールとして重視する論理性、判断力、最終的には表現を通して考える力や感性を育てたいということについてまとめた。

加えたのは相手意識で、相手に分かるように工夫し、伝えることで自分自身の発見など「感性や情緒を豊かなものに高めていく」と結論付けた。

部長

何かご意見はあるか。大変わかりやすくなったと思う。なければ次に「全学習期を通じて指導する指導事項」の「語い力」の説明についてはどうか。(特に意見なし) 続いて「その他」。先ほどの説明では特設する活動を取り上げるとのことだが。

事務局

各学習期の中で表現会のようなものを設けると一つのまとめになるのではないかという話があったので、触れておいた方がいいのではと思ったのが理由の一つ。もう一つの理由は偶数ページで原稿を仕上げるために「その他」で1ページ増やしていただきたいと思ったためだ。第Ⅰ期、第Ⅲ期については意見が出ていたが第Ⅱ期でどのような具体的なテーマが出せるかが課題だと思う。

部長

「その他」を膨らませて1ページにするということは、具体的な活動例をここで触れるということか。

事務局

こんなことがまとめとして出来るという形で提案できないかと考えた。

部長

来年度、活動例を表にしていく作業の中で「10歳のスピーチ」などが入ってくるが、そのことを想定してここで触れておくということか。

委員

小中一貫教育校の教育課程における学習活動の特色として、各期が終了する時点での目玉として何かしようという意味ではないか。

事務局

各期の中でこういう機会を設けることが1つのきっかけになるのではないかという意見が第3回にあったので、その点に触れた方がいいのではと考えたが、必ず載せなければならないというものではない。

部長

単純に出たものを並べるのは簡単だ。しかし副部長が言うように活動例に小中一貫校の特色を出さなければならないのに、どんな特色を出していくか議論していないうちに活動例を決めるといのはいかなものか。来年度のことを意識し、関連付けて詳しく書くとすればそれなりの理論構成が必要になる。

委員

あくまでも例示ということで、我々の議論の中ではどんな事だったかというのをもう一度反芻してみればよい。

事務局

各学習期において表現会のようなものを設けるという形で、具体的に二つの例が出ていたが第Ⅱ期では触れられていなかった。

部長

考えればある程度のものは出てくると思うが、浅い触れ方で数行にまとめるのではなく、1ページに膨らませるとなると結構深入りしなくてはならなくなると思う。

事務局

触れ方としてはそれほど長く書くつもりはなかったが、1ページに膨らませることができれば体裁がいいかと思った。

部長

資料2の表は原稿のなかに入れないということでよいか。

事務局

全体の構成とは異なるページになるので他部会との調整が必要だが、いいということになればこれを入れてもいいかとは思ふ。

アドバイザー

資料3のような形で全体の枠組みを埋めていく必要があるが、具体的な活動例を示す必要があるのか、今のところは指導事項だけでいいのかどちらなのか。今年度のある時点では実践例を入れていかなくてはならないと思っていたのだが。

事務局

具体的な実践例は来年度で、今回入れる必要はない。

部長

ここについては事務局がまとめてくれるということなので、皆さんがイメージしている表現の場面や実践事例などあれば出していただきたい。

事務局

自分の学校がこんなにいい学校だということを紹介する「学校紹介」の活動。

アドバイザー

混乱しているのだが、今議論しているのは活動の具体的なアイデアと各学習期の区切りで目玉的にやる活動のアイデアのどちらなのか。

部長

多分こうなってしまうと思ったが、活動例を出していくとその活動がどういう内容でどんな意義があるのかという方向に行ってしまう。

事務局

了解した。ここの部分は取り下げたいと思う。

アドバイザー

問題提起として議論することに意味はあると思う。個別の活動のほかに区切りにそういった活動の場があることは大きなアピールになる。実際にやるとなれば全員参加の学芸会のようなイメージで行うことになるのか。

部長

大きな全体でしたり、学年単位でしたり、2学年合同だったりいろいろと思うが、小中一貫の利点を生かしてやることになると思う。

委員

「2分の1成人式」なら4年生が保護者や親に向かって発表する学年単位の形が多い。総合的な学習の時間で調べたことを発表する時には6年生が5年生を聞き手にすることもある。場合によっては全校生徒の前での発表も考えられる。

アドバイザー

学習発表会や学芸会のほかにそういった重めのイベントを組む余裕はあるか。工夫次第で可能なのか。

委員

うちの学校では文化発表会で午後にそういった代表者の発表というのが結構ある。かなり大きなイベントになると思う。

部長

あとはワークショップのように一つの学習課題について調べたことを、コーナーごとに発表する。聞く人は自由に好きな所へ行って聞く。考えれば沢山あると思うが、全部触れるとするとやはり議論が必要になる。

事務局

学習期の最後にちょっと会を設けるというイメージしかなかったのだが。

委員

カリキュラムの目玉となる集大成の活動はいくつでも考えられる。例示をするのはいいが、なぜその活動を各期の終りに設けることが有効と考えたか理由をつけて触れておくだけでいいのではないか。どうしても入れたければ、意見として出た、こんなことができる、こんな時間にあれができるといったものを出し、具体的な内容は次年度に考えるということでもいいのではないか。

事務局

せっかく小中一貫になるのだから中学生から小学生、小学生から中学生といった機会を与えることに表現する場としての利点があるということに触れておけばいいのではないか。

部長

小中一貫校の基本の1つにスムーズな連携があるので、学習が急に難しくなることを和らげていく表現の場を考えていくといいのではないかと思う。来年度、具体的な活動を考える時には小中一貫のカリキュラムを作るということを強調しながら考えることが大事だと思う。

委員

では、必ず異学年の交流を取り入れるとか留意点のようなものを書き加えておけばいいかもしれない。それから9年間を見通してとか、最終的な子供像へ結び付けて、各活動を有機的に関連付けるとか……。

アドバイザー

各期の終りにやるということは小学校1年～3年は、4年になるとそういう活動があるので、それを目指してやるという目標になる。

また、それぞれの期にネーミングがあるので、その特色に狙いを合わせれば活動にバラエティが出てくると思う。

部長

各期の狙っているものを象徴するような活動例を考えていくといいとのご指導をいただいた。最後にA3の資料3。事務局としては次回までにこれを全て埋めていくという考えか。

事務局

ある程度入れたい。「表現に関する技能」で非常に分かりやすい形で提示していただいたものを文章の方に入れようとも考えたが、広がりすぎてしまうので表の方に入れた。他の柱に関しても同じような形にできればと思う。

アドバイザー

資料2をもっと詳しくするということか。例えば「調べる力」のⅠ期では二つ出ているが、これをもっと詳しくするということか。

委員

図書館に行くとかパソコンを使うというようなことか。

事務局

私も「組み立てる力」について考えてみたが、順序立てて話すためには「次に」とか「そして」といった接続語が必要になるが、そういうものを入れていくということか。

部長

他の柱にも同じように書けるかという問題がある。「調べる力」なら図書館、インタビュー、インターネット……。

委員

あと礼状とかいろいろ出てくるが、ちょっと無理やり感があって「表現に関する技能」に比べ難しい。分かりやすくはあるが図書館など同じ言葉が全期に出てくる可能性もある。

部長

「組み立てる力」では先ほどの接続詞などがすごく大事だと思うが、それ以外に何かあるか。

事務局

「何々だから」という形で言えるとか文になってしまうと思う。話す、伝える、書く、作るのように項目を出していくのは難しい。

アドバイザー

Ⅲ期ではある問題についてアンケートを組み立て、取れるようになるというのはすごい能力だと思うので、一つの目標としていただきたい。また「演出的な組み立て」についても同じような物が欲しいが、どう表現するか非常に難しい。

部長

フリップを使うとかペーパーサートにしようという発表全体の構成もあるが「表現に関する技能」とかぶってしまう…。「態度・相手意識」についてはどうか。

委員

同じようなことを引き伸ばし、言葉を換えて分けたものなのでこれ以上細分化するというのはかなり無理がある。

部長

態度や意識は見えにくい部分だから書きづらいが、技能は見えやすく書きやすい。四つの柱を同じように並べるのは無理がある。技能に関する詳しい情報は今年出さず資料2の表を入れて、具体的にどんな技能をつけるかという説明は来年度の原稿に入れるというのは事務局としてどう思うか。

事務局

資料3を入れず6ページでもいいか。

事務局

6ページに縮小しなければならないほど本部会の検討の中身が少ないとは思わない。具体的なになったものについてはぜひ生かしていただきたい。来年度は具体的な活動の指導案、ワークシートといったものの開発に多くの労力がかかる。

一般的に小学校の教員は中学校、中学校の教員は小学校で具体的にどのようなことが行われているかよく知らないので、資料3の形でまとめてもらうことには価値がある。これがあることで7年生の先生が5年生の活動を知り、活用しようとする材料にすることもできる。他の柱の内容が少なくてもかまわないので、資料3の形で載せていただきたい。

部長

それでは小学校の4人の先生には各柱のⅠ期からⅡ期の途中くらいまで、実際に小学校で行われていることを言葉にしてきてもらう。中学校の先生も同様にⅡ期の途中からⅢ期まで書いていただく。表記については各委員が工夫して考えていただきたいが、説明を加えるような書き方ではなく端的に、表を見た先生が一目でどんな活動や指導をすればよいか分かるものにしていただきたい。

次回で今年度の部会は終了し12月20日までに原稿を仕上げることにしたい。

(第9回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

12月4日(金) 16:00～

場所：練馬区役所本庁舎 11F 1101 会議室

その他言い忘れたことなどあるか。

委員

(2)本部会の検討の視点に出てくる五つの柱の順番が、(3)重視する指導事項で説明する順番と違っているのでそろえた方がいい。また柱の名前自体も(2)と(3)で違っているので合わせる必要があるのではないか。

部長

細かいことだが(2)に「相手の意識を重視すること」という表現があるが「相手を意識する」ではないか。

アドバイザー

気がついたことだが「調べる力」のⅢ期に「話し合いの中で発言を否定したりせず、質問し合い～」とあり、非常に大事なことだと思うがむしろ「態度・相手意識」に入るものではないか。「態度・相手意識」ではⅠ期は数人のグループ、Ⅱ期ではクラスのみならず、Ⅲ期では他のクラスや知らない人の前でそれぞれ相手意識を持って話ができるといった発達の系統も考えられるのではないかと思う。

部長

切り口や見方を変えると新たにここに書いておかなければならないものが見つかると思う。他になれば最後に副部長から挨拶をいただきたい。

委員

次回までタイトな日程となっているがご協力をお願いしたい。いつも遅くまでありがとうございます。